

IAUD Newsletter vol.10 第7号(2017年10月号)

1. 「第12回48時間デザインマラソン in 東京」開催報告..... 1
2. 標準化研究WG「名古屋市こどもUDワークショップ」実施報告..... 5
3. 第12回しんきんビジネスマッチング「ビジネスフェア2017」に出展・後援..... 11
4. IAUD 10月の予定..... 12

誰もが安全で快適に楽しめる街づくりを提案

デザインワークショップ「第12回48時間デザインマラソン in 東京」開催報告



満員となった最終日の公開チームプレゼンテーション会場(東京・芝浦)

IAUDのユーザー参加型デザインワークショップ「第12回48時間デザインマラソン in 東京」が、8月31日(木)から9月2日(土)の3日間、芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)で開催され、今回も大変魅力的で実現性の高い提案が多くなされました。

最終日に行われた公開チームプレゼンテーションには、IAUD 総裁の瑤子女王殿下にご臨席賜り、48時間デザインマラソンへの期待と、若手クリエイターが障害者との積極的な創造活動に対する姿勢へ、温かいご支援のお言葉を頂戴しました。

今号のNewsletterでは、3日間の様子をワークショップ運営委員会の藤木武史委員長が報告します。

中小企業と連携してデザイン提案を制作、実用化へ

48 時間デザインマラソンは、障害を持った一般ユーザーとメーカーの企業クリエイターが共にフィールドリサーチを行いながら、街に存在する施設やプロダクトの課題を発見し、新たなデザイン提案を行うものです。

「UD の普及と啓蒙」「将来を担うデザイナーの育成」「新たなデザイン開発手法の探求」「デザインに積極的に参加する障害のあるユーザーの育成」の 4 つを目的としており、2006 年の「第 2 回国際 UD 会議 2006 in 京都」で 1 回目を開催して以来、今年で 12 回目を迎えるワークショップです。

2014 年からは、地域で活躍する製造系中小企業にも参画頂き、ワークショップで出たデザイン提案を実際に制作し、実用まで繋げられる目標を新たに付加しました。

今回は芝浦工業大学と東京東信用金庫のご後援、金沢美術工芸大学荒井利春名誉教授の監修のもと、コクヨ(株)、トヨタ自動車(株)、ブラザー工業(株)など企業 16 社から 30 名の企業デザイナーやマーケッター、エンジニアが参加しました。

参加者はユーザー 1 名とクリエイター 6 名からなる A から E の 5 チームに分かれ、芝浦工業大学の学生ボランティアも含め、総勢 63 名でワークショップを実施しました。

各チームは 48 時間の制限時間の中で、ユーザーと共に街へ出かけ様々な課題を発掘するフィールドワークと、アイデア抽出やデザインの具現化、モデリングで検証を重ねるデザインワークを行い、具体的な UD 提案までを集中して行います。

そして、各チームの提案は最終日に公開プレゼンテーションとして行います。



会場の芝浦工業大学
芝浦キャンパス

テーマは「オリパラへ、そしてオリパラ以降の観光」

今回のテーマは「オリパラへ、そしてオリパラ以降の観光」です。

「東京 2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会」で東京を訪れる多くの外国人や障害者、高齢者など、誰もが安全で快適に楽しめる街やプロダクトのあり方を提案しました。

初日には、各チームはそれぞれ「観戦を楽しむ」「食を楽しむ」「買い物を楽しむ」「芸術を楽しむ」「散歩を楽しむ」のサブテーマのもと、「東京 2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されるエリアを中心にフィールドリサーチを行いました。

そして、フィールドリサーチで気づいた事項から課題を見つけ、新たなプロポーザルに繋げるアイデアを議論しました。

2 日目は新たな提案を具現化するチーム作業を、芝浦工業大学芝浦キャンパスの教室で実施しました。

今回は、瑤子女王殿下が「芸術を楽しむ」B チームのフィールドリサーチとチーム作業に公務としてではなく、プライベートでご参加くださいました。



フィールドリサーチの様子(東京・両国駅)

瑠子女王殿下は、両国でのフィールドリサーチには 10km を超える距離をチームメンバーと一緒に街を歩きながら調査にご参加くださり、途中、道に迷う外国人観光客に英語で対応されるシーンもありました。

また、2 日目のチーム作業では、夜遅くまで作業を見守ってくださりました。



深夜まで集中して行われたチーム作業

瑠子女王殿下から励ましのお言葉

最終日に芝浦工業大学芝浦キャンパス 8 階メインホールで行われた公開プレゼンテーションには、瑠子女王殿下ご臨席のもと、IAUD 会員や墨田区で活躍をされる製造業系中小企業の方々 70 名、メディア関係者など 189 名が参加しました。

各チームの提案は以下のとおりです。どれも魅力的で実現性のある提案がされました。

A チーム「食を楽しむ」: 健常者や障害者で食物アレルギーを持つ人が、安心して試食物成分内容の確認や試食、注文までできる「試食パッケージ」。

B チーム「芸術を楽しむ」: 下町の小さなお店や画廊などを情報ネットワークで繋ぎ、街全体を芸術の街として元気にする「一期一絵」。

C チーム「街歩きを楽しむ」: 視覚障害だけでなく、外国人観光客が知らない街でも目的地まで感覚的にナビゲーションしてくれる「VIVIT」。

D チーム「観戦を楽しむ」: 健常者も障害者も観戦シーンでは 1 つの仲間になり、猛獣になったつもりでチームに応援エールを送れる応援グッズ「GAO」。

E チーム「買い物を楽しむ」: 足に装着したバイブレーション情報端末を使って、地図や携帯端末を見ずに目的ショップまで案内してくれる「ナビィ」。



プレゼンテーションに聞き入る参加者



白熱した各チームのプレゼンテーション



ご挨拶なさる瑠子女王殿下

各チームのプレゼンテーション終了後、瑠子女王殿下にご挨拶いただきました。

瑠子女王殿下は、「この48時間デザインマラソンはUDの普及と啓蒙を行うためにも大変重要な活動で、各チームからの提案もとても魅力的でした。今後はより活動の幅を広げ、製品化にまで繋げていけるよう地域の企業様のご協力をお願いしたい。また、今回参加したメンバーには、是非一過性のイベントではなく各職場に持ち帰り業務で活かしていただきたい。そして、ユーザーさんとの出会いも大切にしてほしい」と、大変励みとなるお言葉を頂戴しました。

さらに、各チームには48時間デザインマラソンに参加し魅力的な提案を成し遂げた証として、48時間ワークショップ運営委員会より「修了バッジ」が授与されました。

最後に、墨田区で活動する中小企業代表として、(株)浜野製作所の浜野慶一社長から、「是非一つでも多くの提案を実現化できるよう、地域が一緒になって努力したい」と、ご挨拶いただきました。

実用化に向けてプロトタイプ作成

今後の予定では、10月中旬にワークショップの活動内容を記録した報告書を参加企業全員に発行します。

また、東京東信用金庫の協力のもと、実際に地域で活躍する中小企業と実現化を検証しプロトタイプを作成するフェーズに移ります。

プロトタイプ作成のプロセスは今後のNewsletterでも報告します。(了)



参加者全員で記念撮影

※これまでの「48時間デザインマラソン」開催報告は下記よりご覧ください。

<https://www.iaud.net/48hdm/>

子どもたちが考える未来の UD 社会

活動報告:標準化研究 WG「名古屋市こども UD ワークショップ」実施



「第 6 回国際 UD 会議 2016in 名古屋」で行われた「こども UD ワークショップ」報告の様子
(名古屋市・名古屋国際会議場)

標準化研究ワーキンググループ(以下標準化研究 WG)は、名古屋市立栄小学校 4 年生クラスと名古屋市立鶴舞小学校 4 年生クラスで、2016 年 6 月から 6 か月間にわたり、「こども UD ワークショップ」を実施しました。

そして、2016 年 12 月に開催された「第 6 回国際 UD 会議 2016in 名古屋」において、参加した生徒の皆さんが実施内容とその成果を発表しました。

今号の Newsletter では、「こども UD ワークショップ」の活動詳細を同 WG が報告します。

子どもたちから家族、地域へ UD を広げる

2016 年に国際 UD 会議を名古屋で開催することが決まり、河村たかし名古屋市長より、「名古屋市民に UD を理解してもらいたい」との要望をいただきました。

IAUD では小学生が UD の考えに触れることで、その家族、そして地域へ UD が広がって行くと考え、2012 年に福岡市立照葉小学校で、また 2015 年には東京都江東区立第六砂町小学校で UD ワークショップを実施しました。

それらの経験を踏まえ、標準化研究 WG は、「名古屋市内の小学校で UD 授業行い、国際 UD 会議で小学生が発表する」ことを教育委員会に提案しました。

そして、名古屋市立栄小学校と名古屋市立鶴舞小学校の 2 校で、社会を意識し始める 4 年生を対象に「こども UD ワークショップ」を実施することとなりました。

実施にあたっては、両校の先生と相談・検討し、総合的な学習の時間と福祉教育の時間を使い、「知る」「気づく」「調べる・深める」「話し合う・伝える」の 4 つのステップで組み立てたカリキュラムを作成し、実施していきました。

※福岡市立照葉小学校、東京都江東区立第六砂町小学校での「こども UD ワークショップ」の開催報告は以下の Newsletter をご覧ください。

<https://www.iaud.net/newsletter/2517/>

<https://www.iaud.net/newsletter/2582/>

第1回授業「知る」～様々な人がいるということの理解～

まずは子どもたちに、様々な立場の人がいることに気づいてもらうため、標準化研究WGが作成したテキスト「UDってなんだろう」と、このテキストに沿って学習できるパワーポイントアニメーション教材を小学校に提供しました。

子どもたちには、教材の様々な人のシルエットの絵から、身の回りにいる人を思い浮かべて、その人がどのような特徴を持っているのかを考えてもらいました。



パワーポイントアニメーションを使った授業風景と使用したテキスト「UDってなんだろう」

第2回授業「気づく」～多様な人の体験～

「様々な人、大変な人がいっぱいいる。UDって大切だな」と感じた子どもたちに、実際にその人たちになってもらうため、小学校から歩いて5分ほどのところにある、「名古屋人権啓発センター ソレイユプラザなごや」を訪問しました。

子どもたちには、車いす利用者や高齢者、視覚障害者、妊婦さんなど、様々な人を疑似体験してもらい、どんな気持ちになるか、身をもって感じてもらいました。

疑似体験を通して様々な人の気持ちに気づき、「自分たちで何かできないか、何かしてあげられないか」という気持ちが芽生え始めました。



車いす体験



妊婦さん体験



目が見えない人体験

第3回授業「気づく」～多様な人との交流～

UDの知識を得た子どもたちは、視覚障害者と車いす利用者に自分たちの小学校に来ていただきました。

校内を案内し、お二人がいつも使っている道具を見せていただいたり、給食を一緒に食べたりしました。

出会いと関わりの中で、障害が特別なことではないこと、不自由ながらも工夫して生活していることを知り、あらためてUDの持つ力と大切さを学びました。

さらに、お二人の顔を思い浮かべることで、より具体的に、身の回りの課題に気が付くようになりました。



車いす利用者と「ここがいいね、ここが困るよ」探し



視覚障害者に学校を案内しよう

第4回授業「調べる・深める」～街の中のUD探し～

街の中でUDを探す学習を実施する前に、子どもたちの気づきへの誘導をスムーズに行うため、標準化研究WGメンバーで現場の下調べを行いました。



点字付き手すり誘導ブロック



短くてもエスカレーター



ドアだとわかる誘導ブロック



誰でもトイレ



多言語対応のパネル



開けやすいレバーと手かけ



おもてなしのカバン置き



座って靴がはけるエントランス

街中のUD視点での調査のポイント

街調べ学習は、学区内の4か所(地下鉄伏見駅、名古屋市科学館、ヒルトンホテル名古屋、中区スポーツセンター)に分かれ、それぞれ5~6名のグループで行いました。

その場所は「だれ」にとって使いやすいか、「だれ」にとってはもう少し工夫が必要か、写真で記録しながら観察を行っていきました。

子どもたちは下の写真のように、使いやすい場合は「○のカード」、工夫が必要な場合は「△のカード」を出し合って理解を深めました。

「だれ」については標準化研究WGが事前に決めていた、「目が不自由な人」「おとしより」「赤ちゃんのいる人」「外国の人」「車いすに乗った人」「耳が不自由な人」としました。

標準化研究WGは先生方と協力し、下調べで抽出したUDポイントで子どもたちが自ら気づきを得られるよう、見守りました。



「耳が聞こえない人には○、でも目の見えない人には△だね」



「段差がなくて、誘導ブロックもあるから、すべての人に○」



第5回授業「調べる・深める」～身の回りのUD探し～

2016年10月に「名古屋人権啓発センターソレイユプラザなごや」で開催された「UD企画展」を訪問し、自分たちの身の回りにある文具や家電製品、日用品などのUD対応商品を見学しました。

子どもたちは点字がついたシャンプーボトルやアルミ缶、指が動かせない人でも持ちやすく工夫されたスプーンやつかみやすい箸、握らなくても使えるはさみ、音声機能が付いた炊飯器などに触れ、小学校に来ていただいた視覚障害者と車いす利用者のことを思い浮かべながら、気づいた工夫や新たなアイデアなど自分の考えを発信しており、UDへの思いをさらに育てていきました。



点字が付いたシャンプーと缶



箸



スプーンと食器

第6回授業「話し合う」～情報の共有とアイデアの具現化～

これまでの体験学習を通して、子どもたち自身は、「UDの視点を持って、様々な人の立場で考える」ということを学びました。

さらに、街の中で様々な気づきを得られるようになりました。

この回ではこれまでの学習をもとにして、みんなが住みやすい街づくりのために「○○さんだ

「だったら困らないだろうか」、「こんなことができたらいいのに」、「こんなものがあつたらどうだろう」と考えました。

さらに、自分達だけでなく、家族、ともだち、様々な人達に考えたことを伝えるために、考えたアイデアに具体的なキャッチフレーズをつけて絵にし、使い方や思いを文章にしました。



「こんなのだろうか。使いやすいかな」



「他のグループはこんなことを考えたんだ」



「こっちの方がもっと良いかな」



「こういうことも考えてみては」



「アイデアが絵になったね」



「いろんなアイデアが出てきたね」

「あつたらいいな、こんなもの」を具現化した授業の様子

「伝える」～「第6回国際UD会議2016in名古屋」での成果発表～

①公開シンポジウム

2016年12月9日(金)から3日間、名古屋国際会議場で開催された「第6回国際UD会議2016in名古屋」での初日の公開シンポジウムで、特別報告「教育のUD～初等教育から生涯学習まで(1)名古屋市こどもUDワークショップ」として、子どもたちが先生の引率の元、順番に発表を行いました。

名古屋市立栄小学校はパワーポイントを使い、緊張しながらもマイクの前で大きな声で発表を行うことができました。

名古屋市立鶴舞小学校は、手書きのボードを使い、わかりやすい発表を実施しました。



栄小学校の発表



鶴舞小学校の発表

子どもたちの感動的な発表に、会場からは大きな拍手が起こり、最後の質疑応答では参加者から「大変感銘を受けた」とのコメントが多数上がりました。

ご臨席されていた瑠子女王殿下からも、「これから日常生活を過ごしていくことで、考え方が変わったり、新たな発見が出てくると思いますが、一番最初に皆さんが感じたことを忘れないでほしい。この発表をして中から(UD の)プロフェッショナルが出てくれたら、IAUD の総裁として嬉しい。今日の発表では皆さんがそれぞれの役割をできたので、私は 100 点の評価をあげたい」と、大変温かいお言葉を頂戴しました。

また、最終日 11 日(日)のクロージングセッション「UD による共有価値の創造」においても、IAUD 評議員の高橋陽子氏より、「子どもたちの発表が感動的であった」との感想とともに、今回の国際会議の中で最も強く印象に残ったセッションの一つとして挙げていただきました。



お言葉を述べられる瑠子女王殿下

②パネル展示

「第 6 回国際 UD 会議 2016in 名古屋」展示会でも、「こども UD ワークショップ」のブースを設置し、今までの活動経緯や子どもたちの学習のために作成したアニメーション、テキスト「UD ってなんだろう?」、上記 2 校での UD 授業の取り組みの活動成果を展示しました。そして、標準化研究 WG メンバーが交代で案内に立ち、説明しました。

企業や学校関係者、官庁の方など多くの方にご来場いただくとともに、貴重なご質問や今後の活動の参考となるコメントをいただきました。



前日のブース準備



UD アニメーションと
テキストの展示



小学生のアイデア成果

「こども UD ワークショップ」の更なる普及へ

標準化研究 WG は、「こども UD ワークショップ」に約 3 年前から取り組み、東京都江東区立第六砂町小学校での開催に続いて、「第 6 回国際 UD 会議 2016in 名古屋」での発表に向け、プログラム内容の改善、実施する小学校の先生との調整、実施・発表のサポートまで、メンバーが協力し取り組んできました。

当面はこの活動を継続していきますが、標準化研究 WG としての活動だけではマンパワーや費用面など開催できる範囲には限界があります。

そのため私たちの最終的な目標は、「こども UD ワークショップ」開催のための様々な説明ツ

ールやノウハウなどをまとめて提供することで、先生方が自ら開催できるような仕組みづくりをすることです。

「第6回国際UD会議2016in名古屋」での子どもたちの発表は大変感動的でしたが、そこまでたどりつくことができたのは、子どもたち自身の力もさることながら、指導された先生方のご尽力、関係者の皆さまのご協力の賜物と、改めて深く感謝申し上げます。

そして、私たちはこのワークショップに参加した子どもたちひとりひとりの心の中に、UDマインドが根付き、育っていくことを心より願っています。(了)

東海地区の技術・商品・知恵が大集結

第12回しんきんビジネスマッチング「ビジネスフェア2017」に出展・後援

IAUDは10月5日(木)にポートメッセなごや第3展示館(名古屋市国際展示場)で開催される「第12回しんきんビジネスマッチングビジネスフェア2017」に、今年も出展・後援します。

当日はIAUDのブースに運営委員会委員長の藤木武史氏と研究部会部会長の木暮毅夫氏が立ち合い、UDの更なる普及と実現を目指すIAUDの主要な活動を紹介します。

また、ビジネス講演会やパネルディスカッション、外資系企業との交流会、経営相談会など様々なイベントも実施されます。

皆さまのご参加をお待ちしております。

※「ビジネスフェア2017」の詳細は下記よりご覧ください。

<http://www.shinkin-businessfair.jp/>

月	火	水	木	金	土	日
2 住宅学生コンペ 応募締め切り	3	4	5 10:00～ ビジネスフェア 2017 出展 @ポートメッセなご や	6 9:00～ 余暇の UDPJ メガネで見る字幕 ガイド鑑賞会@川 崎シネチッタ 10:00～ 研究部会 @富士通 HAB-YU platform	7	1/ 8
9 体育の日	10	11	12 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	13 14:00～ 住空間 PJ @IAUD サロン	14	15
16	17	18	19	20 13:00 手話用語 SWG @富士ゼロックス ティーキューブ	21	22
23	24	25	26	27 13:00～ 標準化研究 WG @IAUD サロン	28	29
30 14:00～ 住空間 PJ @IAUD サロン	31					

次号は 2017 年 11 月発行予定

特集: 余暇の UDPJ メガネで見る字幕ガイド鑑賞会他

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847 e-mail: info@iaud.net